

# 「理想の暮らし」にみるそれぞれの「観」

## ぼくの / わたしのユートピアワークショップ

人間空間デザインコース

1811060 八田 京子

### ● 研究の背景と目的

アルバイト先の塾で高校生の進路相談を経験  
自身や周りの大学生の就職活動とその準備



学生が将来について  
考えることに関心

#### ● 社会の流れや問題

平成 29・30・31 年改訂学習指導要領

それぞれに思い描く幸せを実現する  
「生きる力」を育む教育を目指す

エンジョイハラスメント

「仕事は楽しいもの」という価値観を強要する  
ハラスメント

**目的：**学生が自身の将来や働くことについて、  
自分なりに考える機会となるワークショップの提案

### ● 研究の流れ

- ・学生が将来について考えることに関連する「キャリア」「職業観・勤労観」などの語の定義を整理
- ・実際のキャリア教育・キャリア支援の方針やその内容を調査
- ・ワークショップを設計・実施し、参加者の成果物やアンケート結果から提案内容を評価

### ● 「キャリア」と「職業観・勤労観」の定義

#### 「キャリア」とは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく  
連なりや積み重ね

中央教育審会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）より

ここでいう「役割」には、仕事・職業だけでなく、家庭や地域社会などにおける役割も含んでいる。

#### 「キャリア教育」とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、  
キャリア発達を促す教育

中央教育審会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）より

#### 「職業観・勤労観」とは

職業観 … 職業に対する価値的な理解や人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての  
認識のこと

勤労観 … 職業や家事などあらゆる勤労に対する価値的な理解・認識

国立教育政策研究所生徒指導研究センター：児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）より

### ● 実例 1：北海道札幌手稲高校のキャリア教育

ヒアリング対象：北海道札幌手稲高等学校の渡邊昭博先生

手稲高校は平成 23 年にキャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞している。キャリア教育の主な流れとして、  
1 年次で働くことへ理解を深め、2 年次では各自の興味を大学の学問や進学への意欲につなげていく。企業や大学と連  
携した 3 年間の体系的なキャリア教育を実践し、大学進学の見据えたキャリア・プランを立てる能力を育てている。  
また、こうした授業は、学習指導要領や教育研究機関の発表をもとに社会の変化に合わせて設計されている。

### ● 実例 2：札幌市立大学デザイン学部のキャリア支援

ヒアリング対象：キャリア支援室の高柳亜季さん

札幌市立大学デザイン学部のキャリア支援は、キャリア支援委員会で策定した方針に基づき計画され、学生への「キャ  
リア教育」と実際の就職活動に対する「キャリア支援」が段階的に実行されている。

#### 1 年生

職業意識の形成以上に学校に慣れてもらいたいと考え、プログラムを少なめにし、負担が増えないように計画  
・6 月「デザイン学部ここだけの話」 ・月 1 回程度の先生・先輩のトークショー

#### 2 年生

・キャリアに関する個別面談 ・キャリア教育科目「フィールドスタディ」での道内外のデザイン先進企業での研修

#### 3 年生

・キャリア教育科目「インターンシップ」「キャリアデザイン」での就職や今後の人生設計に向けた準備・意識づくり

#### 4 年生

・エントリーシートの添削など、就職活動の支援となる取り組み

### ● リサーチからの考察

- 札幌市立大学デザイン学部のキャリア支援で 1・2 年生に向けたプログラムが少なくなっていることの懸念点

学生が高校までのキャリア教育と  
大学での取り組みのつながりを感じづらいのでは？

大学でのキャリア探究に対する意欲を高められず  
3 年生以降の取り組みを唐突に感じるのでは？

→ ワークショップの対象を、札幌市立大学デザイン学部の 1・2 年生に

- 学生が「キャリア」や「職業観・勤労観」について考える上では、  
家事やボランティアなど、職業としての仕事以外の場面についても意識して考えてもらう必要がある

→ 自然に仕事以外の要素について意識してもらうため、  
「自分の理想の暮らしを考えよう！」というテーマのワークショップに

## ● ワークショップの概要

- テーマ …… 自分の理想の暮らしを考えよう！
- 狙い …… 参加者が普段から自分のキャリアを考える意識づくり  
それぞれの今後の目標を明確化・具体化
- 対象 …… 札幌市立大学デザイン学部の1・2年生
- 開催形式 … オンライン (teams)

## ● ワークショップの3段階の構成と当日の流れ

### ● 全体説明 5分

#### 段階1：考える (その時点での夢や目標、考えに理解を深める)

##### ● ワーク1：「ぼくの/わたしのユートピア」を考えよう 40分

###### ①理想の暮らしの要素を付箋に書く 10分

付箋を Web ホワイトボード内に、中心ほど重要度が高くなるよう配置する

###### ②書き出した内容の共有・整理 5分

他の人の付箋を見て共感したものや新たに思いついたことを付箋に書く

###### ③付箋の内容に関するグループディスカッション 25分

#### 段階2：表現する (考えたことの具体化)

##### ● ワーク2：「ぼくの/わたしのユートピアさくぶん」を書こう 30分

400字以内の作文を書き、考えをまとめる (合わせてイラストなどの作成も可)

#### 段階3：発表する (自分の考えを伝える・他の人の考えを聞く)

##### ● 口頭発表・まとめ 15分

## ● ワークショップの工夫点

### 工夫1：ワークショップでユートピアという言葉を使う

一般常識や社会的に望ましいとされる姿勢に左右されず、参加者の本音を言いやすい状況を作る

### 工夫2：Web ホワイトボードの使用とその使い方

自分の考える理想の暮らしの要素を書き出し、それについて他の人とも共有しやすくする

### 工夫3：グループワークやディスカッションを取り入れる

他の人の話を聞きながら自分の考えを深め、新たな発見をしてもらう

### 工夫4：自分の考えの文章化 / 作文によるアウトプット

自分の考えたことや価値観を文章にすることで具体化・自分の考えを文章化する練習

## ● ワークショップの実施・評価

### 5回の開催・1年生10名、2年生3名の計13人の参加

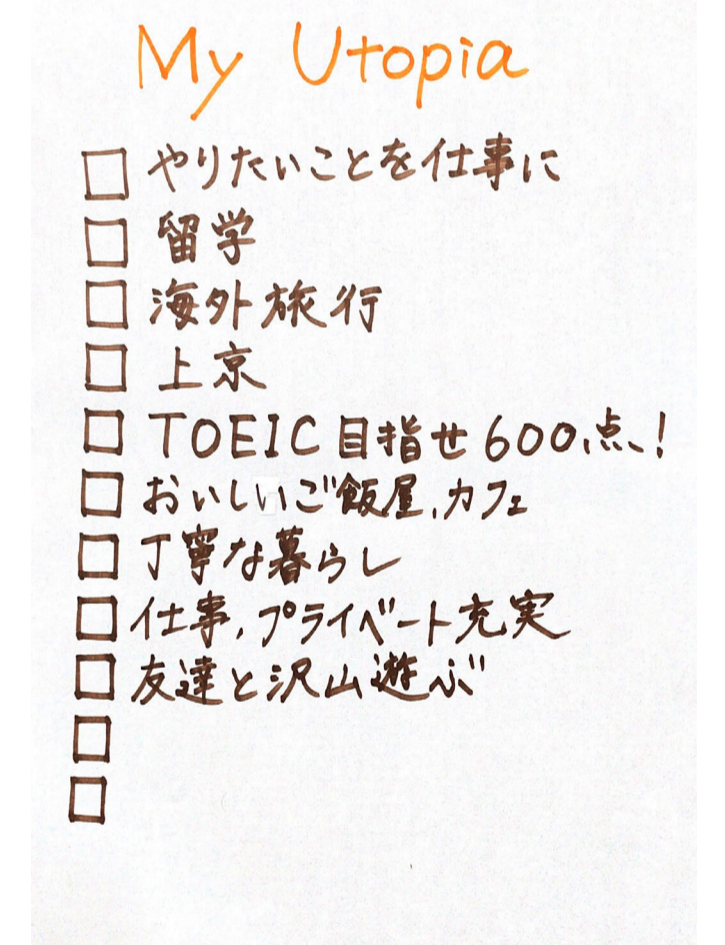
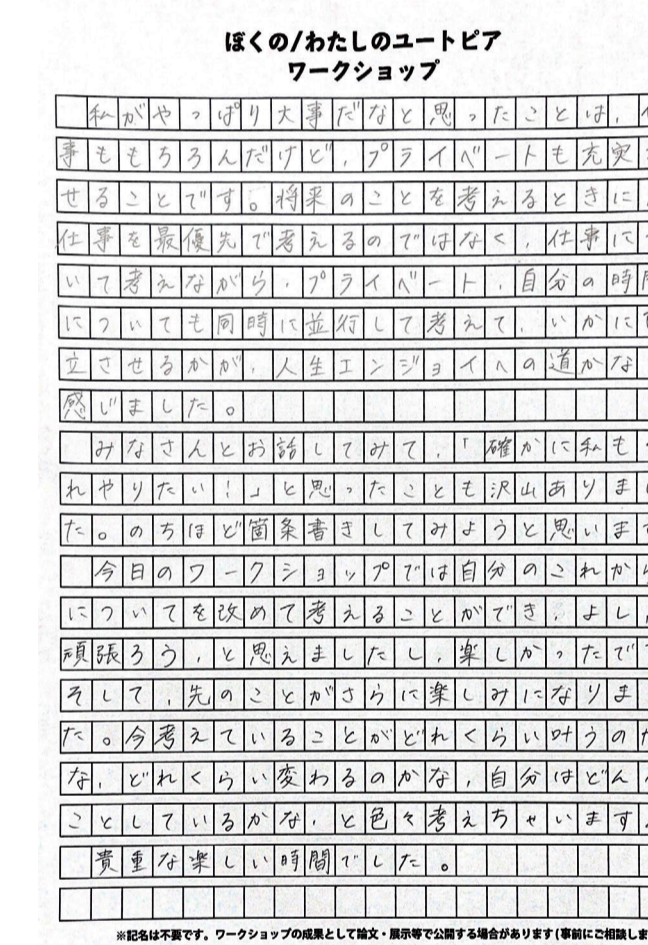
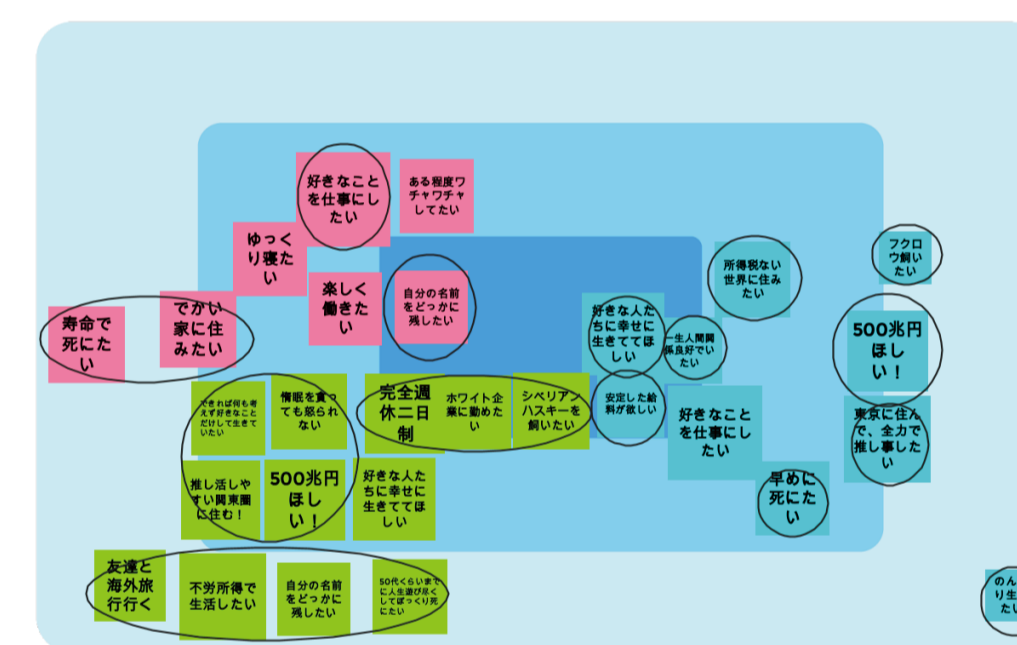
4回目と5回目は、一度ワークショップに参加している2年生が1名ずつリード役として加わり、進行役とともに1年生に話を振りながら参加してもらった。これは2回開催した時点で、1年生の参加者から、他の先輩の話が聞ける機会もほしいという意見が出ていたためである。

### ● ワークショップ中の参加者の様子

ワークショップ中には参加者同士の会話・意見交換が見られ、それぞれの持つ職業観・勤労観、死生観など様々な価値観について話していた。また、仕事とプライベートのバランスについて意識していた参加者も多かった。リード役が積極的に発言・質問することで、会話が増えていた。

### ● Web ホワイトボードの様子と参加者の成果物

付箋の内容からは、普段は話しづらい願望や悩みを読み取れる。作文ではそれぞれの理想の暮らしの要素や自分の持つ価値観についてまとめた内容や、今後の目標や優先して取り組みたいことが書かれていた。図やチェックリストを作ることで自分の考えを整理している参加者もいた。



実際の Web ホワイトボードの様子と参加者の成果物

### ● アンケートによるワークショップの6段階評価 (平均)

- ワークショップを通して、自分の理想とする暮らしに理解を深めることができましたか …… 5.6
- ワークショップを通して、自分の理想とする暮らしを具体的にすることができましたか …… 5.0
- ワークショップを通して、自分の職業観・勤労観に理解を深めることができましたか …… 5.4
- 「ユートピア」という言葉を使うことで、常識や一般的な職業観・勤労観にとらわれないで自分の考えを表すことができた …… 5.0
- Web ホワイトボードや付箋を使用することで、自分の考えをよく整理することができた …… 5.6
- ディスカッションすることで、一人で考えるより自分の理想の暮らしについて理解を深めることができた …… 5.6
- 作文を書くことは、自分の考えの具体化に有効だった …… 5.2

参加者には自分の考えを深め具体化できたという強い実感があり、ワークショップの構成や工夫点への評価も高く、ワークショップの狙いは達成できたと考えられる。こうしてオンライン上でも充実したキャリア探究活動を行えたことは、他の取り組みの参考になると考える。